

亡き夫の

イシ

役立てて

大垣市田町、無職近めたものだという。

藤ゆり子さん(五七)が、金生山は石灰の産地同市赤坂町の金生山で、多くの化石が出る採取された化石約三百個を、山の中腹にある金生山化石館に寄贈した。一九九八年に五十歳で亡くなった夫の正尚さんが、趣味で集

珍しいものは化石館へ持って行ったが、それ以外は家で保管していたという。

今年三月、赤坂への墓参の帰りに赤坂溪跡で化石の展示を見たゆりさんは「ただの石ころにしておくにはもったいない」と考えて、寄贈を申し出た。

ゆりさんの自宅を

金生山 近藤さん(大垣)が寄贈

化石館

訪れた化石館の橋本秀雄館長によると、フズリナやウミユリなどサングの化石があったという。「観察など小学生の教材に使えるのでは」と話している。ゆりさんは「化石について詳しくはないけど、生物の長い歴史を気付かせてくれる。もっと多くの人に知ってもらう機会に役立ててほしい」と話している。

(中平雄大)



化石の前に正尚さんとの思い出を語ったゆり子さん＝大垣市田町で